

2002年(平成14年)1月15日 No.1215

目 次

ロシアの経済成長は今後も続くか..... 高橋浩	1
-2002-2003年を占う-	
キーパーソン.....	9
プリマコフ氏がロシア商工会議所会頭に就任 / 9	
CIS・中東欧諸国通貨の為替レート.....	9

ロシアの経済成長は今後も続くか
-2002-2003年を占う-

1. 経済成長の原因

ロシア経済は1998年8月の金融経済危機の後、1999年は5.4%、2000年は8.3%、ソ連解体後のマイナス成長が基調となっていた時代と比べると高い成長を記録している。2000年の8%をこえる成長というのは、ソ連時代を含めても希にみる高い成長である。2001年も5.5%程度の成長となる見込みであり、工業生産も5%強の伸びとなりそうであり、3年続けて5%以上の成長を記録している（第1図参照。2001年は推定あるいは1-11月の実績を援用、農業生産は省略）。5%成長というのは、2000年に策定された現在の経済発展貿易省の大臣であるグレフ氏を中心とするグループが策定したロシア経済の長期プログラムに合致した数字である。

はたして、この経済成長は今後も続くのであろうか。本『経済速報』（2001年5月15日号）でも触れたいわゆる2003年危機は起きないのであろうか。

この経済成長の原因としては、以下の対外経済要因2点を指摘することが一般的である。

- ①1998年の金融経済危機後に生じた大幅なルーブルの切り下げによる輸入代替の促進
- ②原油価格の大幅上昇等のロシアの輸出品の価格上昇による輸出収入増

これらに加えて、危機直後は、政府の政策によって電気料金や鉄道料金等の価格が抑制され、また、賃金上昇も抑えられたことによる企業収益増も回復の要因にあげられる。しかし、これらの要因も2000年後半までにその効果は減退しつつある。3番目のコスト要因